

近年、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、全国各地で水災害が激甚化・頻発化しており、降雨量の増大等に対応するため、国や自治体はハード整備の加速化・充実や治水計画の見直しを行っています。加えて、上流・下流や本川・支川の流域全体を俯瞰し、国と自治体、企業、住民等、あらゆる関係者が協働で取り組む「流域治水」の実効性を高める法的枠組み「流域治水関連法案」が令和3年11月に施行されました。

本市では、水防法や土砂災害防止法に基づき「洪水」や「土砂災害」さらには今後の地震災害に備えるための「液状化」といった各種の「ハザードマップ」を作成しており、住民の皆さまへは印刷物の配布やウェブサイト等で周知を行っています。

市民の皆さまの各種ハザードマップに対する認知度を把握し、今後の取組みに向けて参考とさせていただくため実施したアンケート結果をお知らせいたします。

(河川課)

調査概要

- 調査期間 令和6年7月5日(金)～7月14日(日) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 411名 (男性 173名 女性 237名 不明 1名)
- 回答者数 374名 (男性 158名 女性 215名 不明 1名)
- 回答率 91.0%

【分析】

《回答者内訳(人)》

年代	10代～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
男性	5	9	30	42	29	27	16	158
女性	10	32	66	57	39	10	1	215
不明	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	15	41	97	99	68	37	17	374

《自分自身の避難について》

- ・自分自身の避難場所について全体の79.7%が「知っている」と回答し、20.3%が「知らない」と回答。(問1)
- ・自分自身の避難ルートについて全体の68.4%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、31.6%が「決めていない」と回答。(問2)

《洪水ハザードマップについて》

- ・郡山市洪水ハザードマップ(以下、洪水ハザードマップ)について92.5%が「知っている」と回答し、7.5%が「知らない」と回答。(問3)
- ・洪水ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の71.8%が事前に「確認している」と回答し、28.2%は「確認していない」と回答。(問6)

《土砂災害ハザードマップについて》

- ・郡山市土砂災害ハザードマップ(以下、土砂災害ハザードマップ)について全体の65.5%が「知っている」と回答し、34.5%が「知らない」と回答。(問7)
- ・土砂災害ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の66.7%が事前に「確認している」と回答し、33.3%が「確認していない」と回答。(問10)

《液状化ハザードマップについて》

- ・郡山市液状化ハザードマップについて全体の38.0%が「知っている」と回答し、62.0%が「知らない」と回答。(問11)

《その他について》

・各種ハザードマップの今後の活用について、全体の24.3%が「既に活用している」、67.4%が「活用を考えている」、8.3%が「活用を考えていない」と回答。（問23）

【考察】

・自分自身の避難場所や避難ルートについて約7割が事前に決めており、災害時における避難への意識が高い。

・新たな避難場所を追加した際は、避難場所の選択肢として認知してもらえよう追加の都度周知を強化する必要がある。

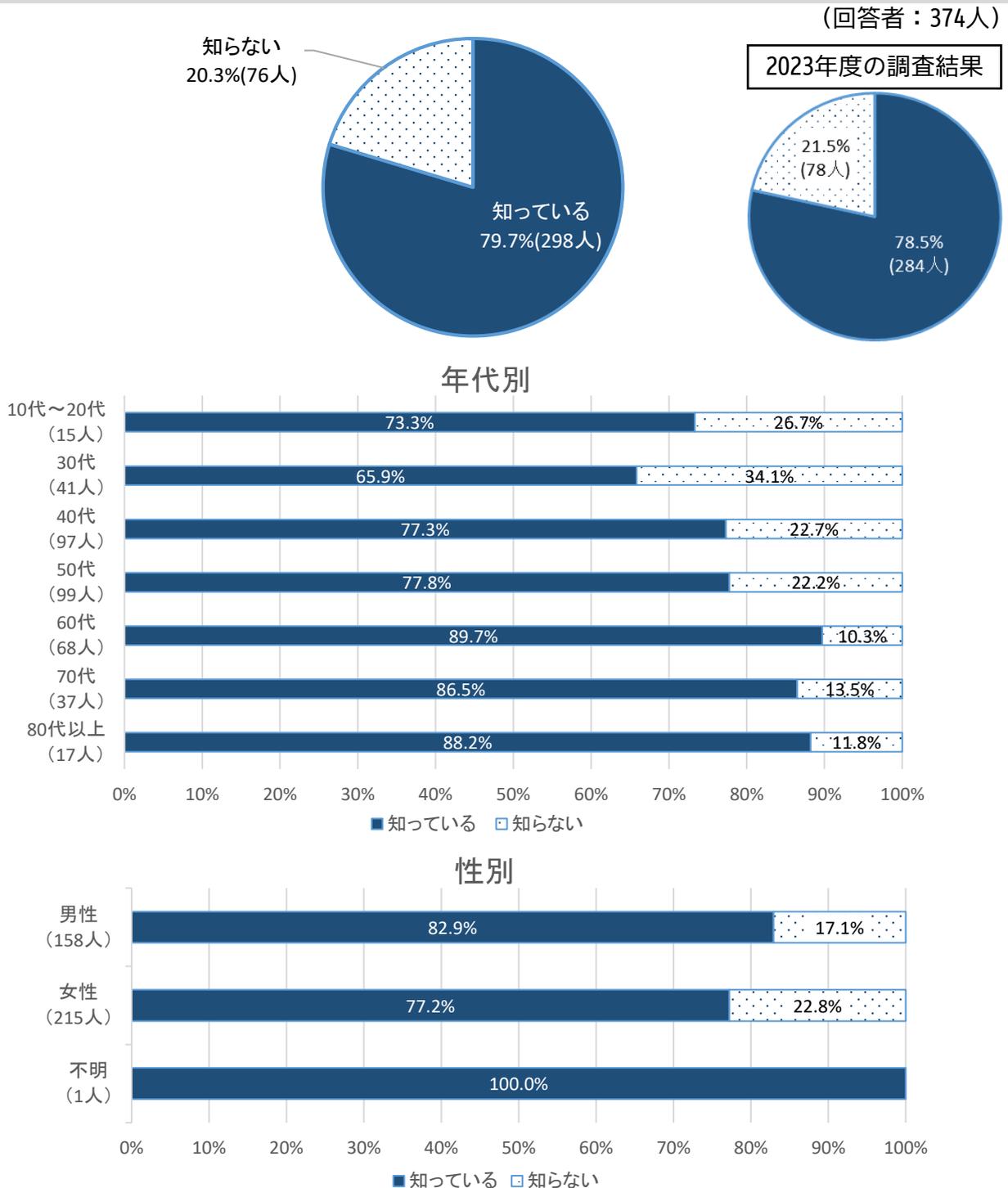
・土砂災害ハザードマップ及び液状化ハザードマップの認知度は、洪水ハザードマップよりも低いので、引続き周知・啓発をしていく必要がある。

・各種ハザードマップの今後の活用について、大多数の方が活用する考えでいる一方で、自宅の周りは安全などの理由から、活用を考えていないという意見もあった。必ずしも、自宅で被災するとは限らないので、引続きハザードマップの啓発を行っていく必要がある。

※ 構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第1章 自分自身の避難について

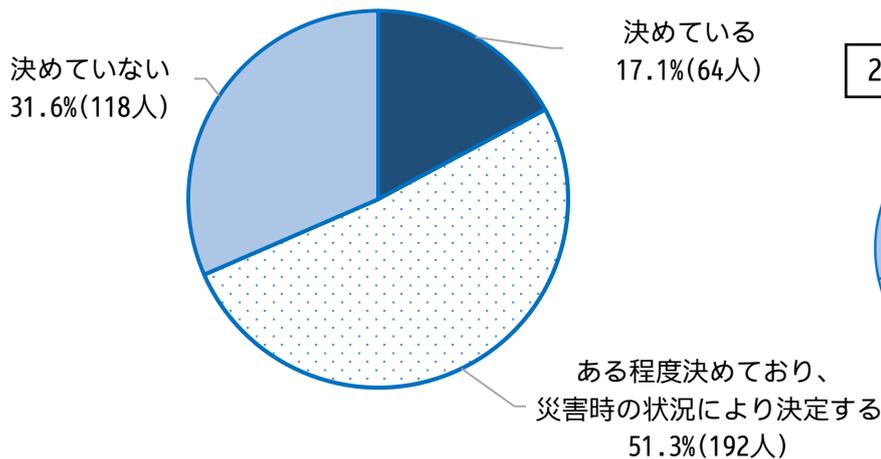
問1 災害の種類（地震、水害など）に応じた自身の避難場所をご存知ですか？ （1つ選択）



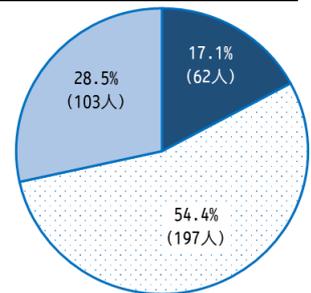
災害の種類（地震、水害など）に応じた自分自身の避難場所について、全体の79.7%が「知っている」と回答している。また、年代別においては、60代以上は約9割、10代から50代では6割以上の方が「知っている」と回答している。年代に関係なく多くの方が、自分自身の避難場所について認識している。

問2 災害の種類（地震、水害など）に応じた自身の避難ルートを決めてありますか？
（1つ選択）

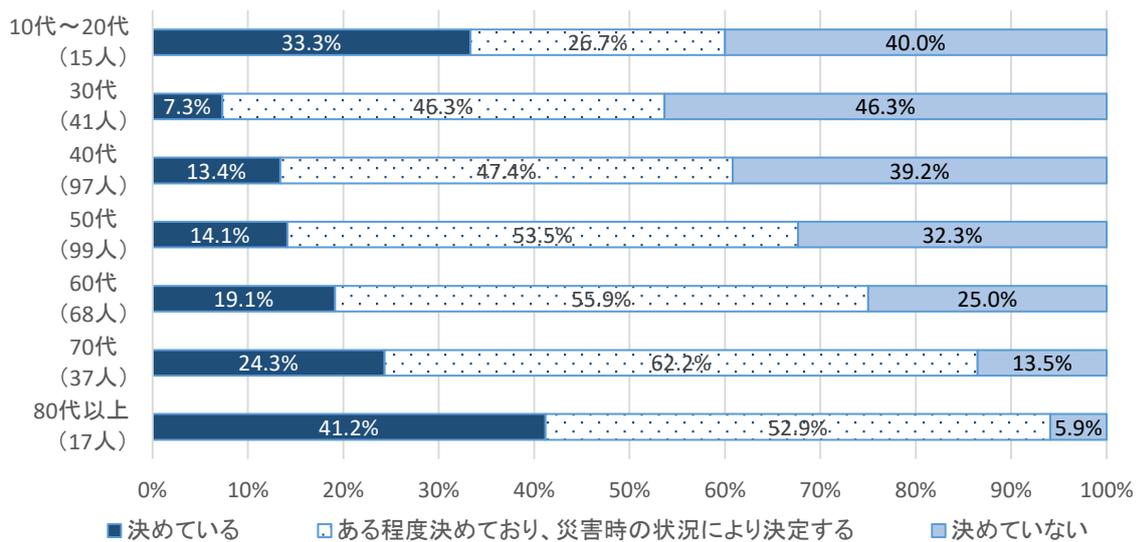
（回答者：374人）



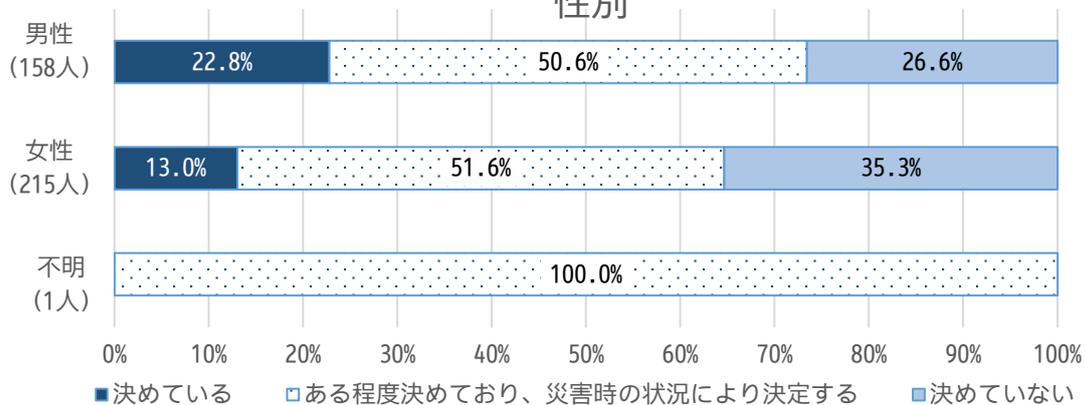
2023年度の調査結果



年代別



性別

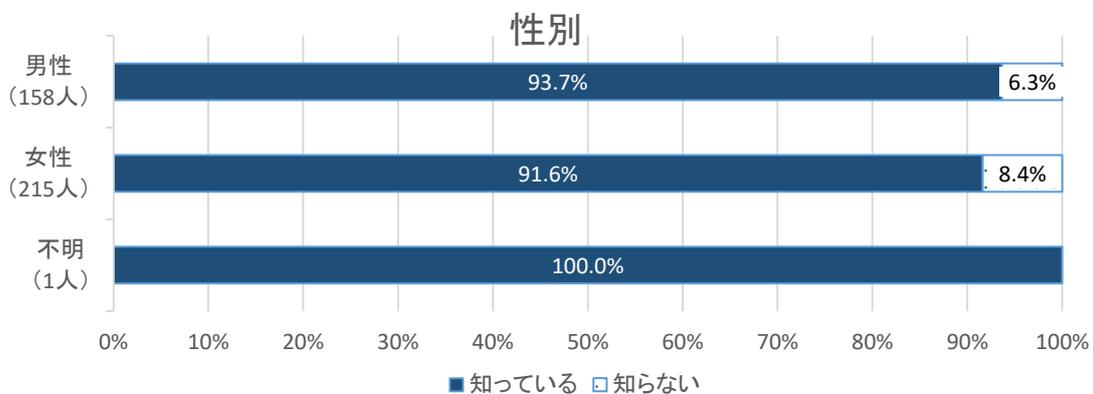
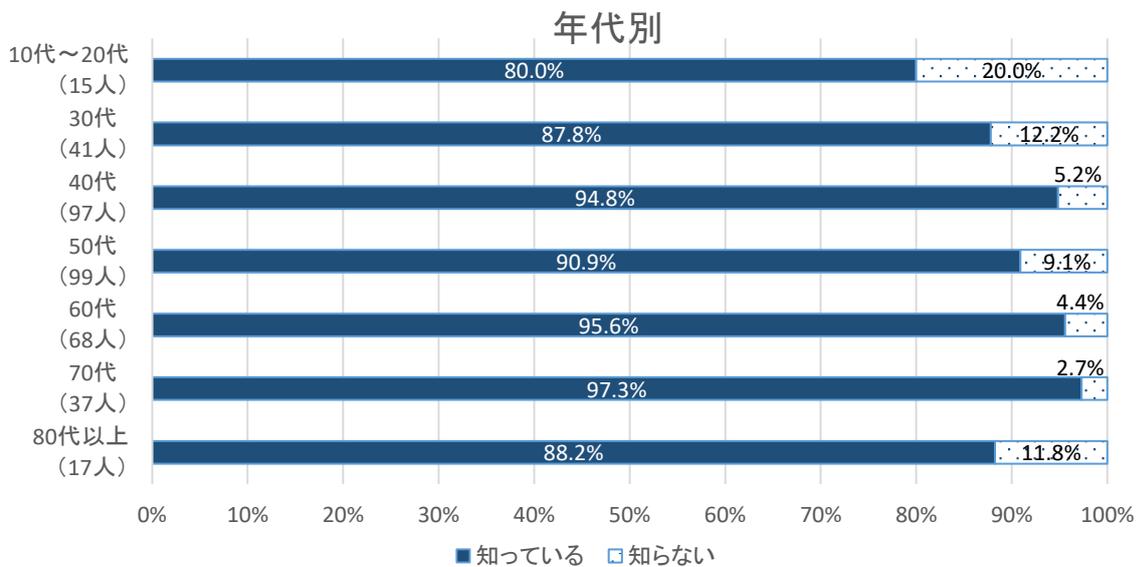
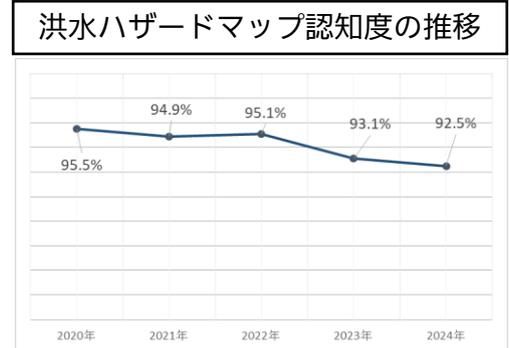
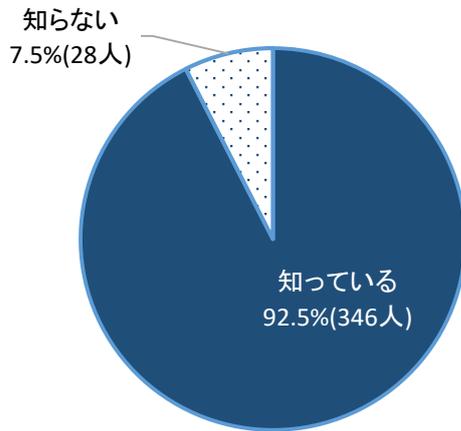


全体の17.1%が「決めている」、51.3%が「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、合わせて68.4%が何かしら避難ルートを決めている。性別では、男性は73.4%、女性は64.6%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答しており、女性よりも男性の方が8.8ポイント高い。

第2章 洪水ハザードマップについて

問3 郡山市洪水ハザードマップ（以下、洪水ハザードマップ）をご存知ですか？ （1つ選択）

（回答者：374人）

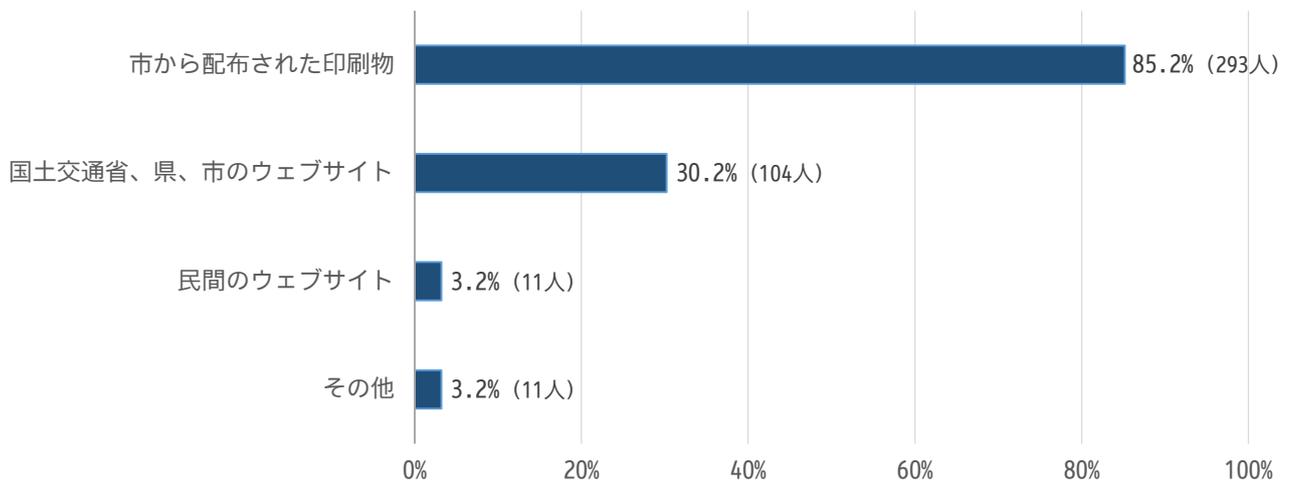


全体の92.5%が「知っている」と回答し、洪水ハザードマップの認知度は9割を超えている。年代別では70代が97.3%と最も高く、一方、10代～20代は80%だった。性別では、男性は93.7%、女性は91.6%であり、どちらも9割以上が「知っている」と回答している。

問4 問3で「知っている」を選択した方に伺います。どのような方法で洪水ハザードマップを知りましたか？（複数選択可）

(回答者：344人)

(無回答：2人)



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

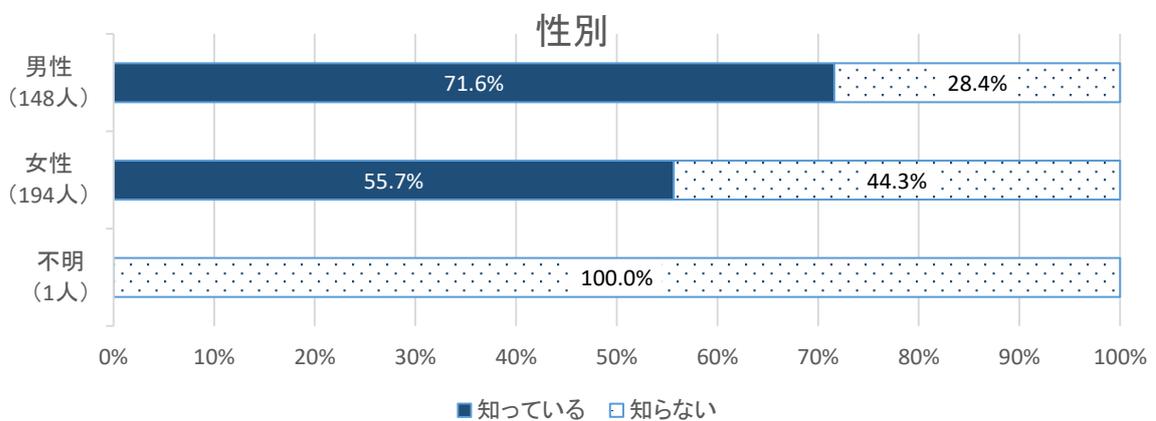
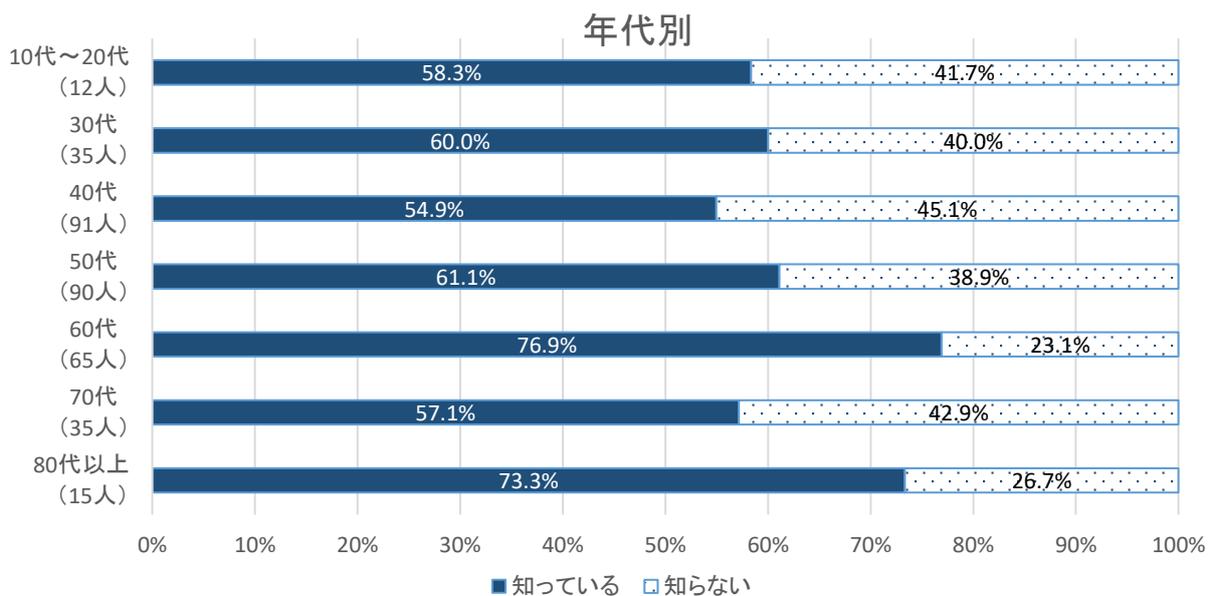
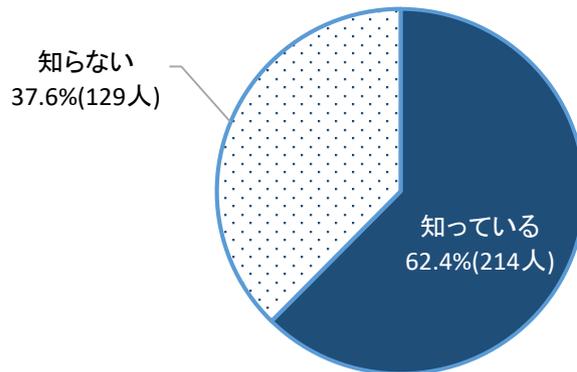
- 学校の授業
- 掲示板（職場、マンション等）
- 研修会や講演会
- 不動産会社

「市から配布された印刷物」が85.2%と多く、市の配布物が最も認知されている。また、「国土交通省、県、市のウェブサイト」が30.2%、「民間のウェブサイト」が3.2%となり、ウェブサイトによる認知は低い結果となった。

問5 問3で「知っている」を選択した方に伺います。洪水ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

洪水ハザードマップURL
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2177.html>

(回答者：343人)
 (無回答：3人)

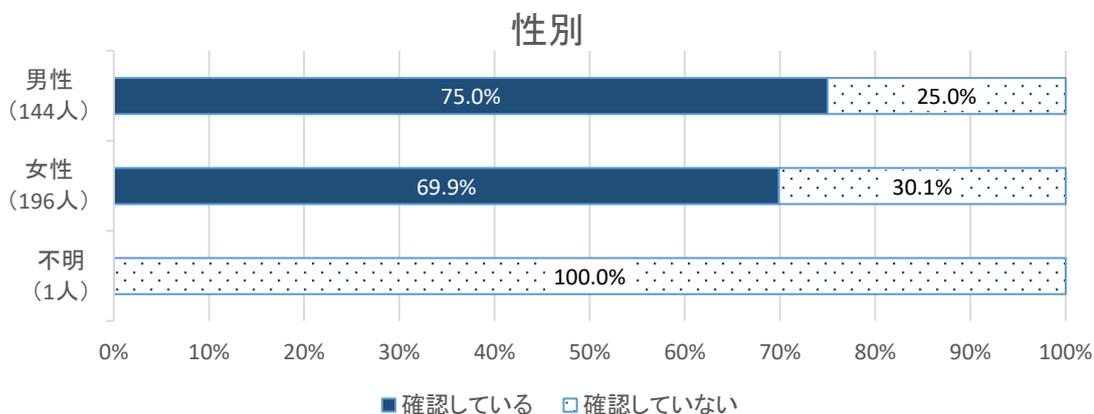
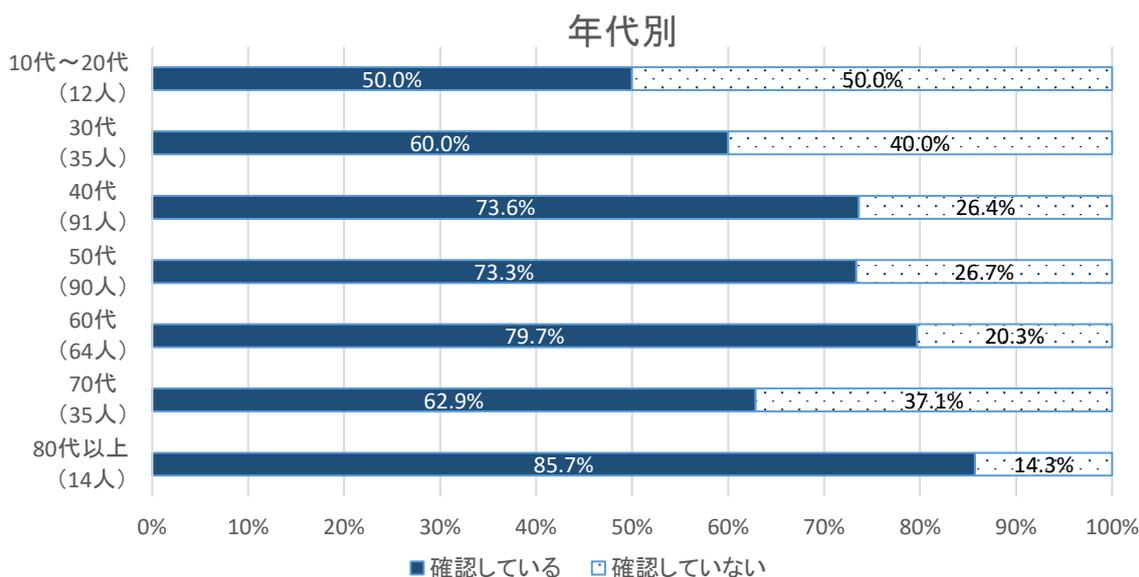
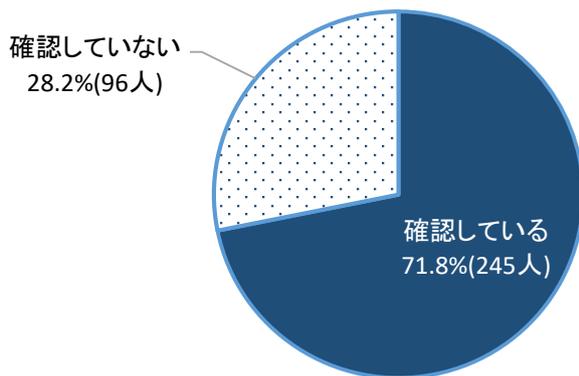


問3で「知っている」と回答した方の内、62.4%が市ウェブサイトからダウンロードできることを「知っている」と回答している。年代別では、60代および80代以上において7割と割合が高く、各世代で半数以上が「知っている」と回答している。性別では、男性は71.6%、女性は55.7%であり、女性よりも男性の方が15.9ポイント高い。

問6 洪水ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の水害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）

(回答者：341人)

(無回答：5人)

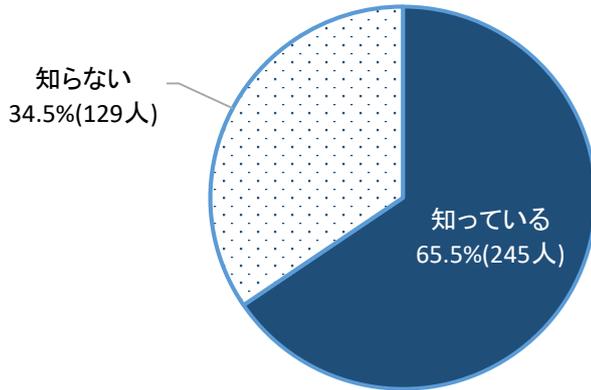


問3で「知っている」と回答した方の内、71.8%が「確認している」と回答している。年代別では、40代～60代、80代以上が7割以上と、他の年代と比較すると高い割合を示した。性別では、男性は75.0%、女性は69.9%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が5.1ポイント高い。

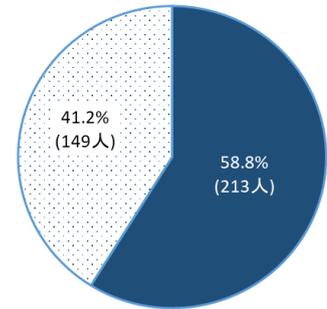
第3章 土砂災害ハザードマップについて

問7 郡山市土砂災害ハザードマップ（以下、土砂災害ハザードマップ）をご存知ですか？
（1つ選択）

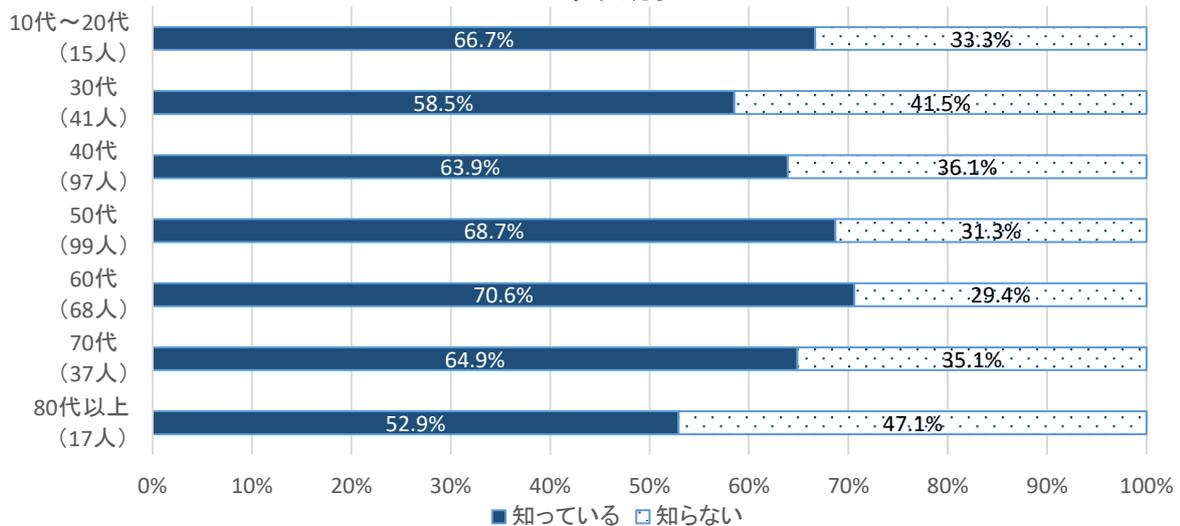
（回答者：374人）



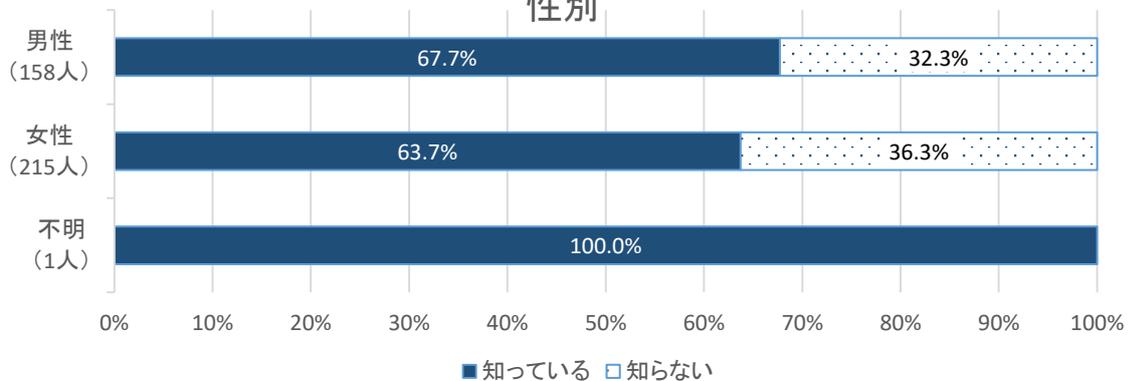
2023年度の調査結果



年代別



性別

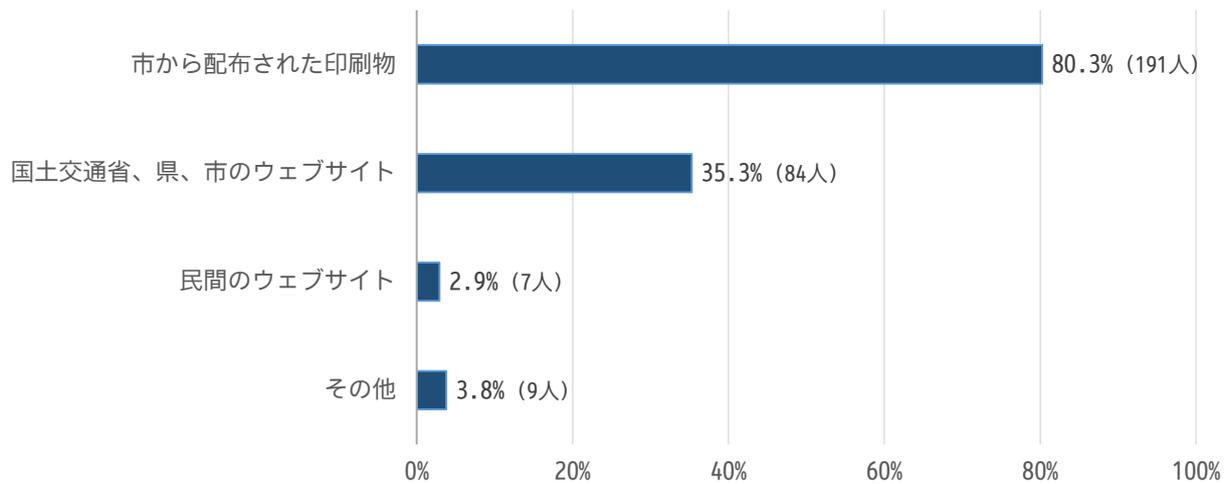


全体の65.5%が土砂災害ハザードマップを「知っている」と回答している。年代別では、30代、80代以上を除く各年代において約6割以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性67.7%、女性は63.7%であり、ともに約6割が「知っている」と回答している。

問8 問7で「知っている」を選択した方に伺います。どのような方法で土砂災害ハザードマップを知りましたか？（複数選択可）

(回答者：238人)

(無回答：7人)



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

- 学校の授業
- 掲示板（職場、マンション等）
- 研修会や講演会
- 不動産会社

「市から配布された印刷物」が80.3%と多く、市の配布物が最も認知されている。また、「国土交通省、県、市のウェブサイト」が35.3%、「民間のウェブサイト」が2.9%となり、ウェブサイトによる認知は低い結果となった。

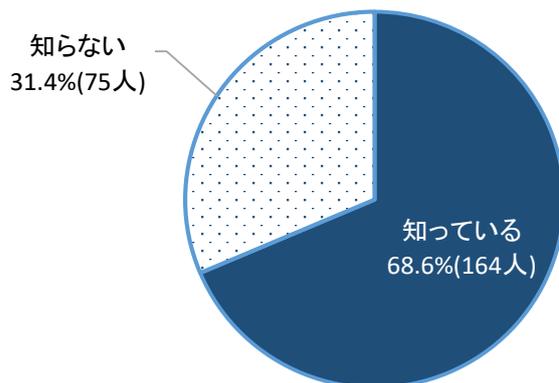
問9 問7で「知っている」を選択した方に伺います。土砂災害ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

土砂災害ハザードマップURL

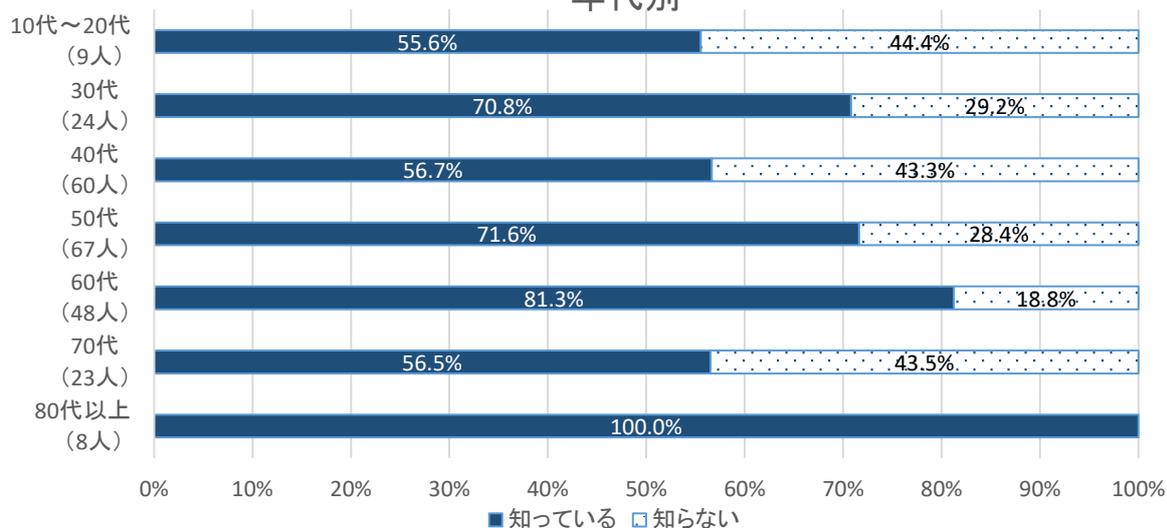
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2172.html>

(回答者：239人)

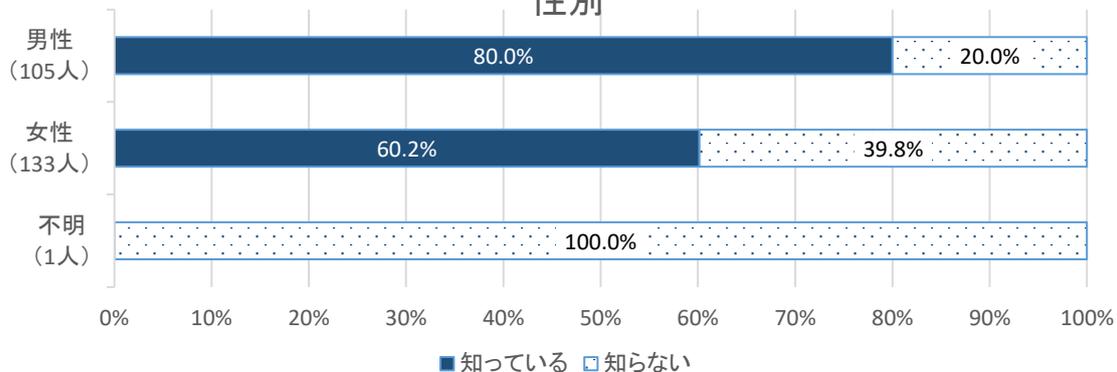
(無回答：6人)



年代別



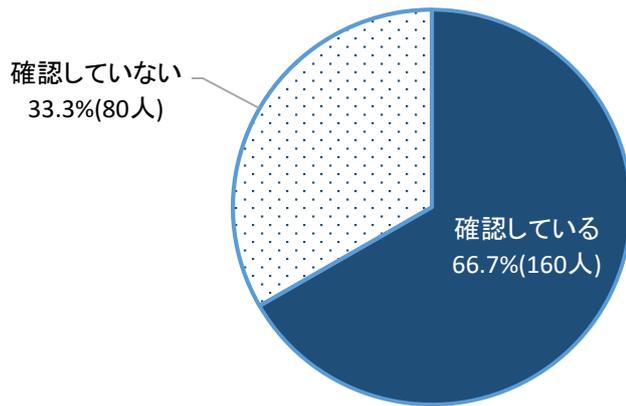
性別



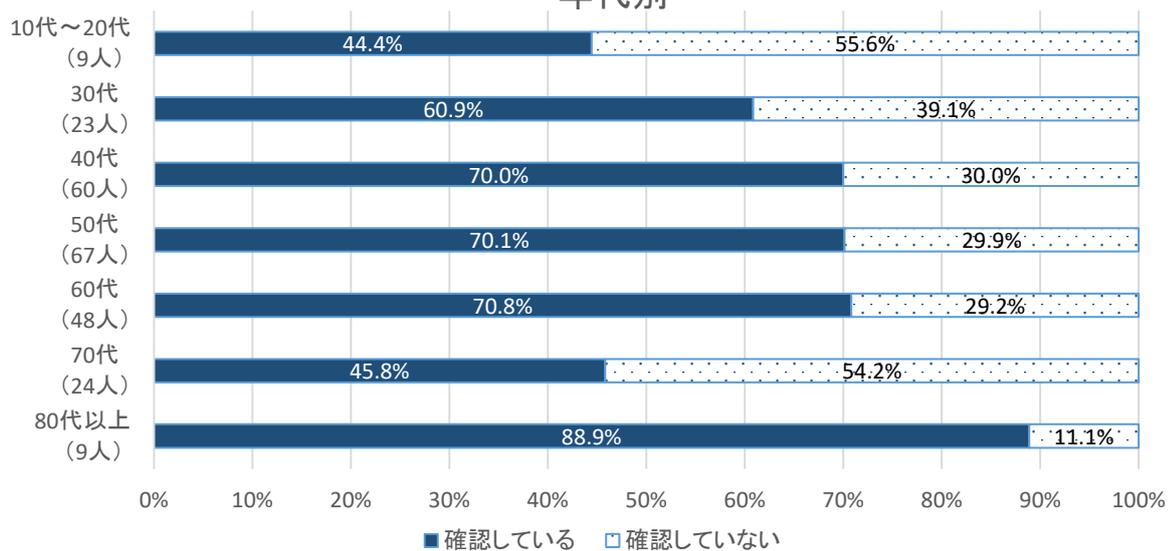
土砂災害ハザードマップのダウンロードについて、68.6%が「知っている」と回答している。年代別では、60代、80代以上において8割以上と割合が高く、各年代で半数以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性は80.0%、女性は60.2%となっており、女性よりも男性の方が19.8ポイント高い。

問10 土砂災害ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の土砂災害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）

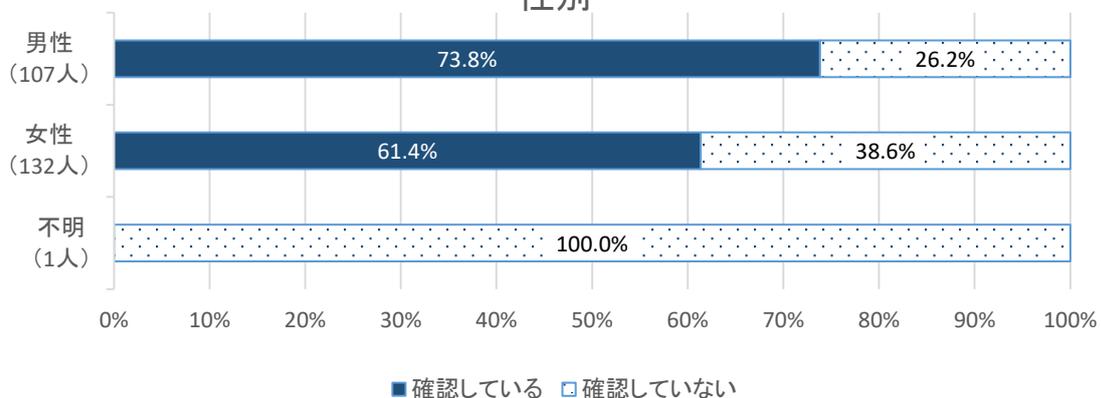
(回答者：240人)
(無回答：5人)



年代別



性別

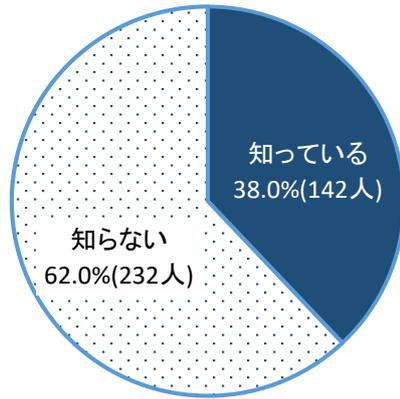


問7で「知っている」と回答した方の内、66.7%が土砂災害リスクについて事前に「確認している」と回答している。年代別では、40代～60代、80代以上は7割以上と割合が高い。性別では、男性は73.8%、女性は61.4%であり、女性よりも男性の方が12.4ポイント高い。

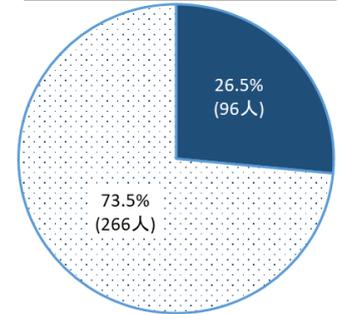
第4章 液状化ハザードマップについて

問11 郡山市液状化ハザードマップ（以下、液状化ハザードマップ）をご存知ですか？
（1つ選択）

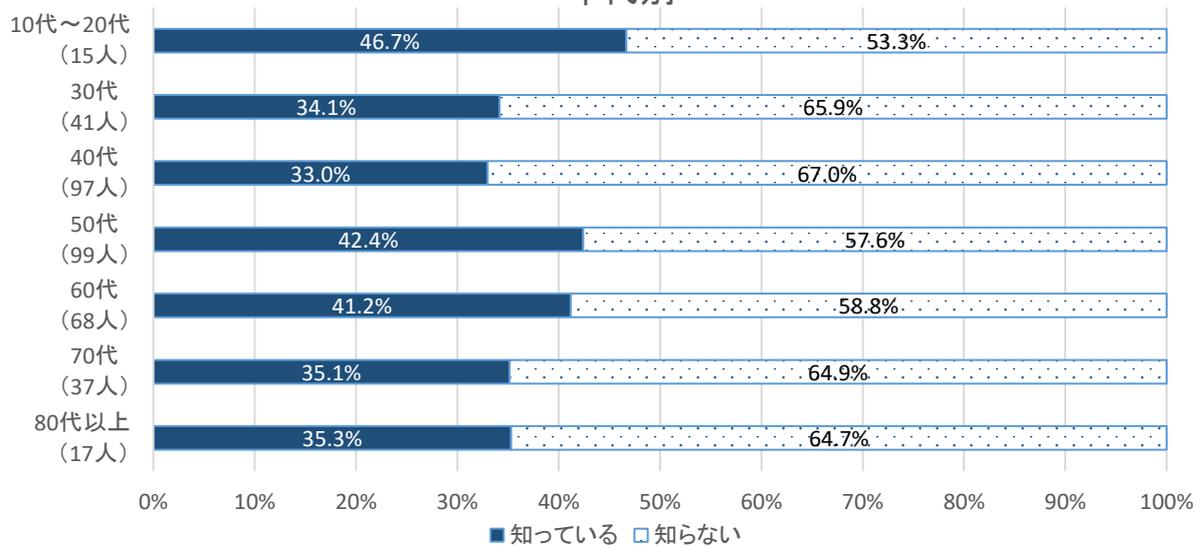
（回答者：374人）



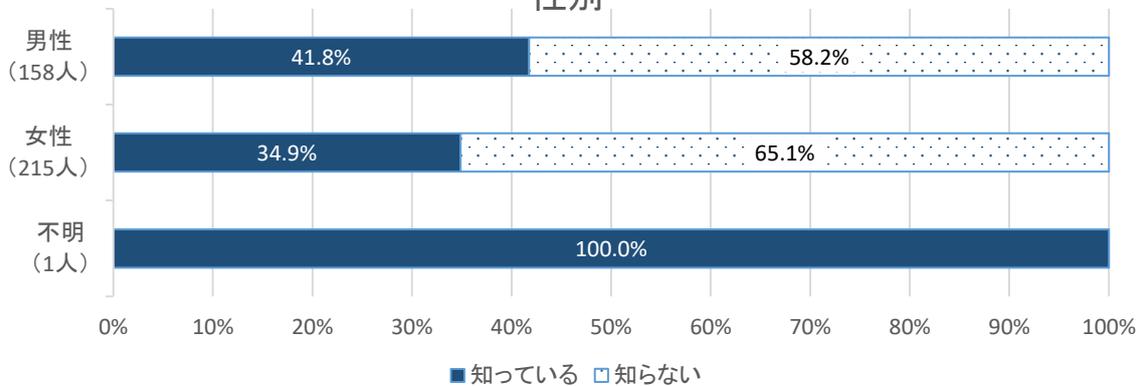
2023年度の調査結果



年代別



性別

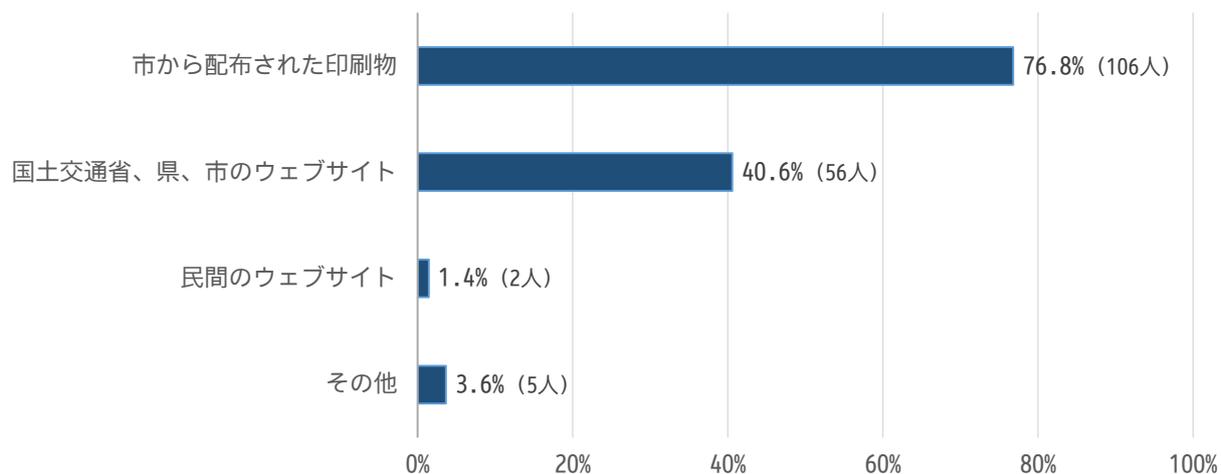


全体の38.0%が「知っている」と回答している。年代別では、どの年代においても「知っている」と回答したのは5割以下で、全体的に認知度が低い。性別では、男性は41.8%、女性は34.9%が「知っている」と回答し、男女ともに認知度が低い。

問12 問11で「知っている」を選択した方に伺います。どのような方法で液状化ハザードマップを知りましたか？（複数選択可）

(回答者：138人)

(無回答：4人)



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

- 学校の授業
- 掲示板（職場）
- 市役所

「市から配布された印刷物」が76.8%と多く、市の配布物が最も認知されている。また、「国土交通省、県、市のウェブサイト」が40.6%、「民間のウェブサイト」が1.4%となり、ウェブサイトによる認知は低い結果となった。

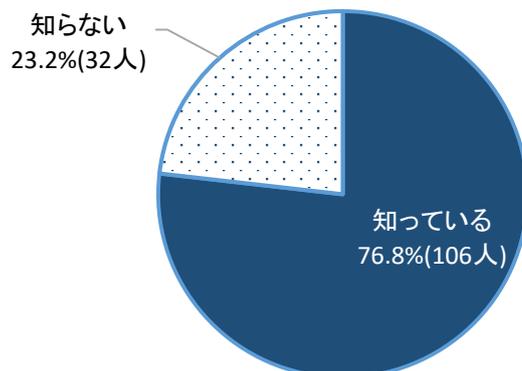
問13 問11で「知っている」を選択した方に伺います。液化化ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？(1つ選択)

液化化ハザードマップURL

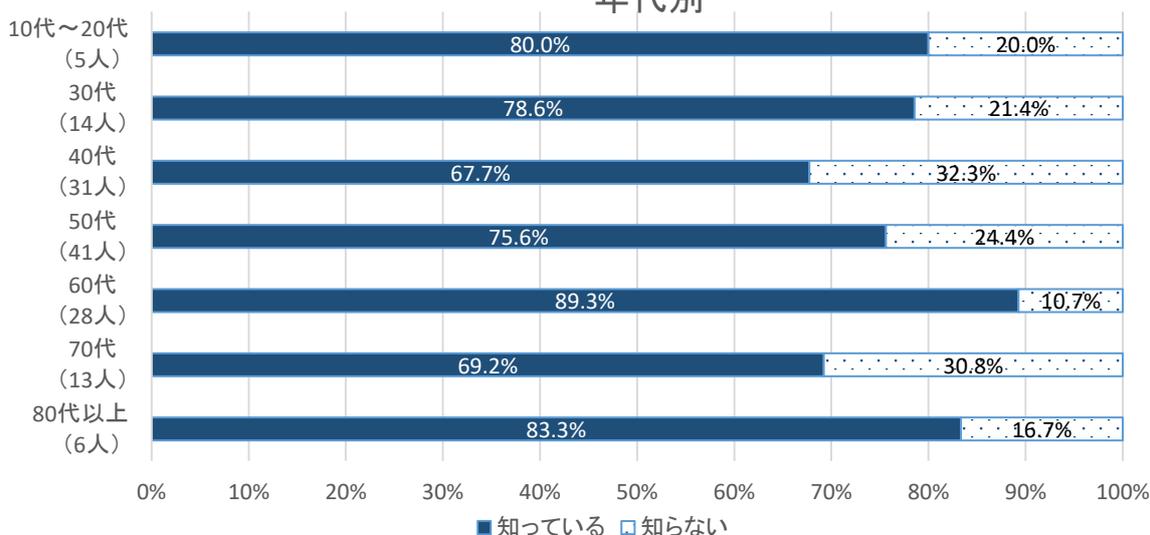
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2180.html>

(回答者：138人)

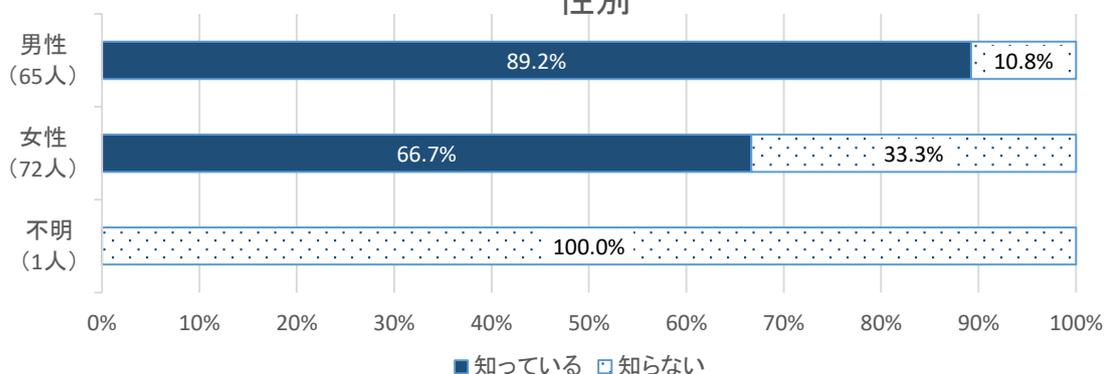
(無回答：4人)



年代別



性別



問11で「知っている」と回答した方の中、液化化ハザードマップのダウンロードについて、76.8%が「知っている」と回答している。年代別では、40代、70代を除く各年代において7割以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性は89.2%、女性は66.7%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が22.5ポイント高い。

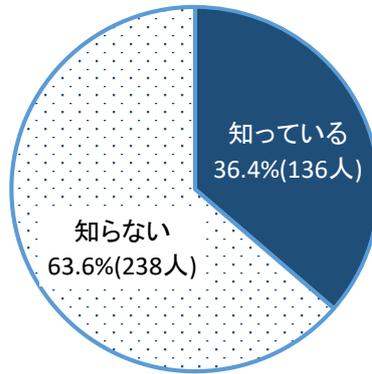
第5章 郡山市地理情報システムについて

問14 インターネットで洪水浸水想定区域や浸水深、土砂災害（特別）警戒区域等を見ることができるサービス「郡山市地理情報システム」をご存知ですか？（1つ選択）

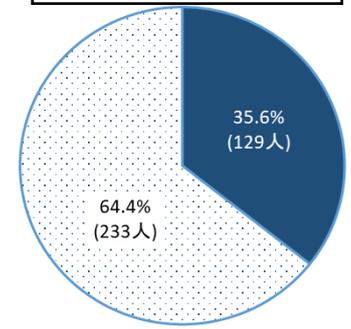
郡山市地理情報システムURL

（回答者：374人）

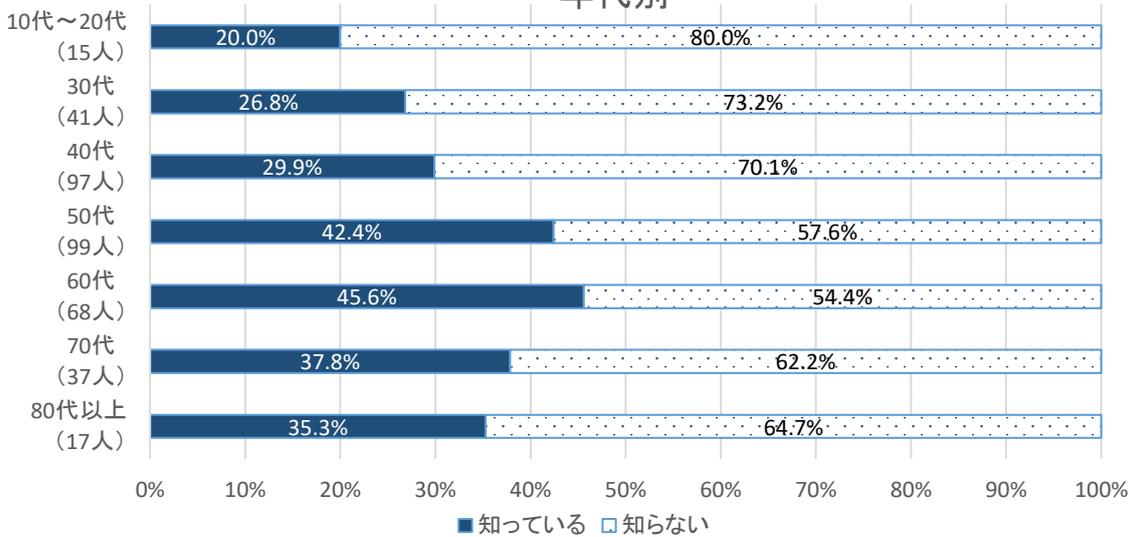
<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/22/1161.html>



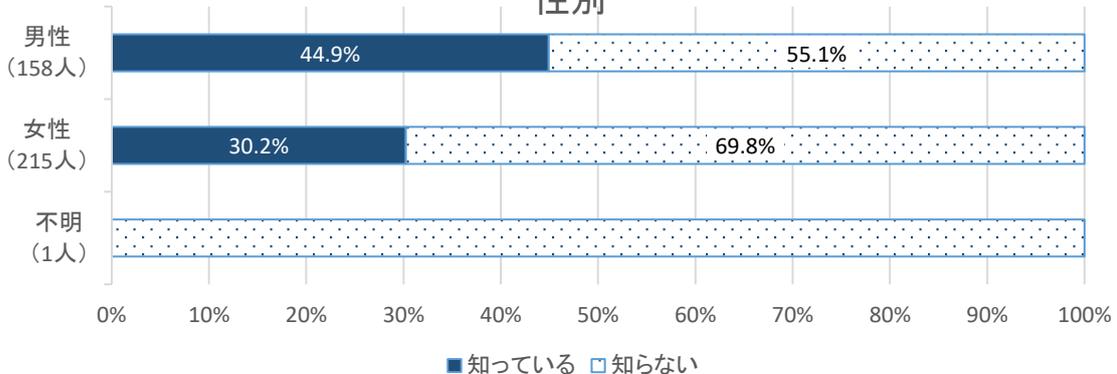
2023年度の調査結果



年代別



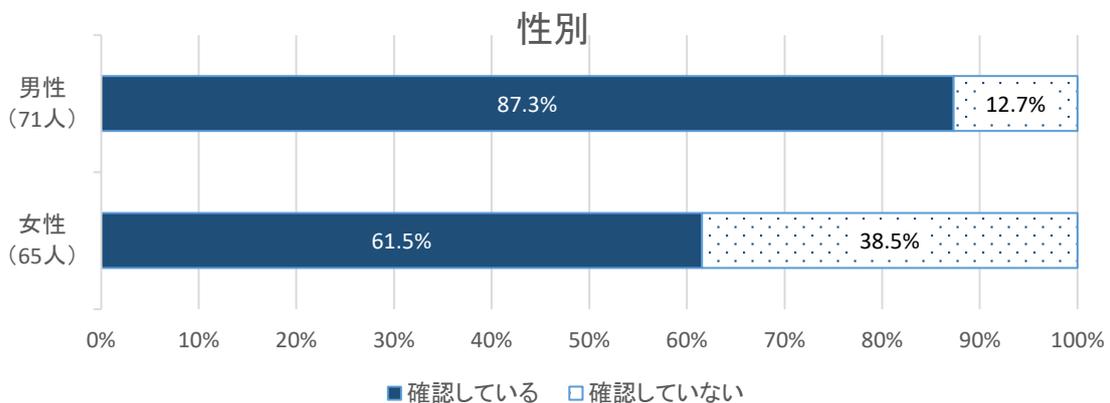
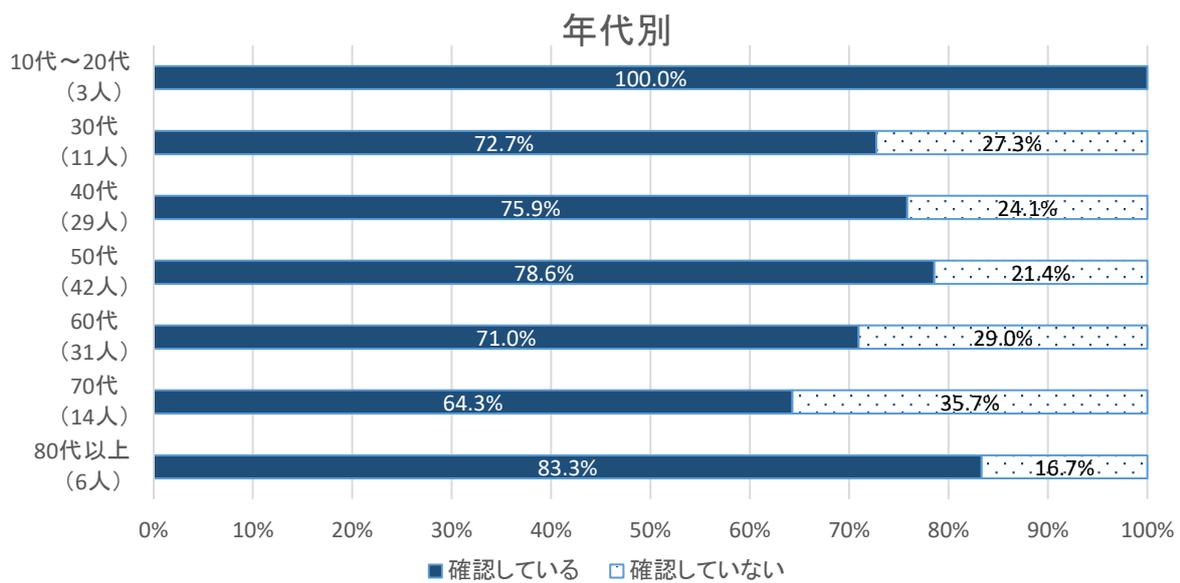
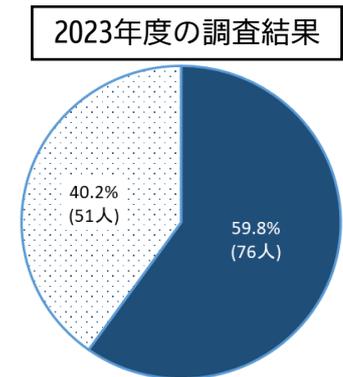
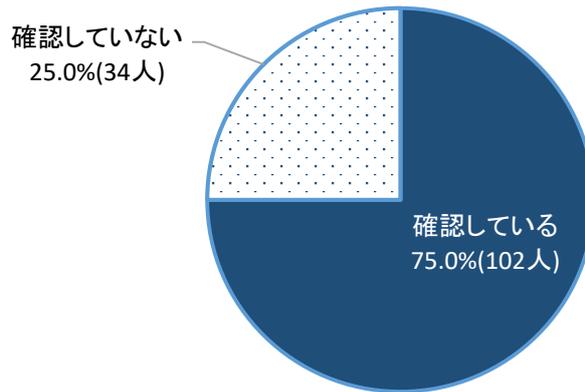
性別



全体の36.4%が「知っている」と回答している。年代別では、各世代において半数以下の割合を示していることから、「郡山市地理情報システム」の認知度は低い。性別では、男性は44.9%、女性は30.2%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が14.7ポイント高い。

問15 問14で「知っている」を選択した方に伺います。郡山市地理情報システムを使って自宅や学校、職場等の水害リスク、土砂災害リスクについて事前に確認していますか？
(1つ選択)

(回答者：136人)

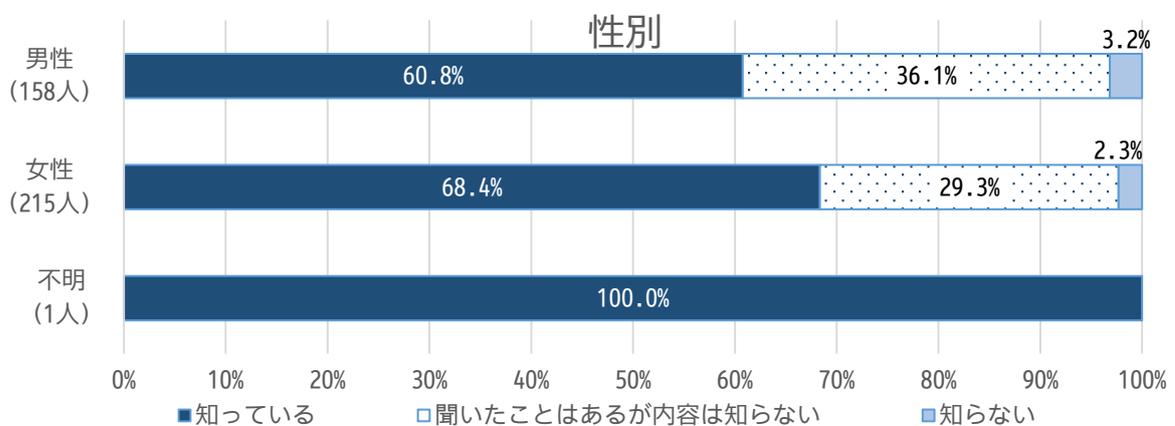
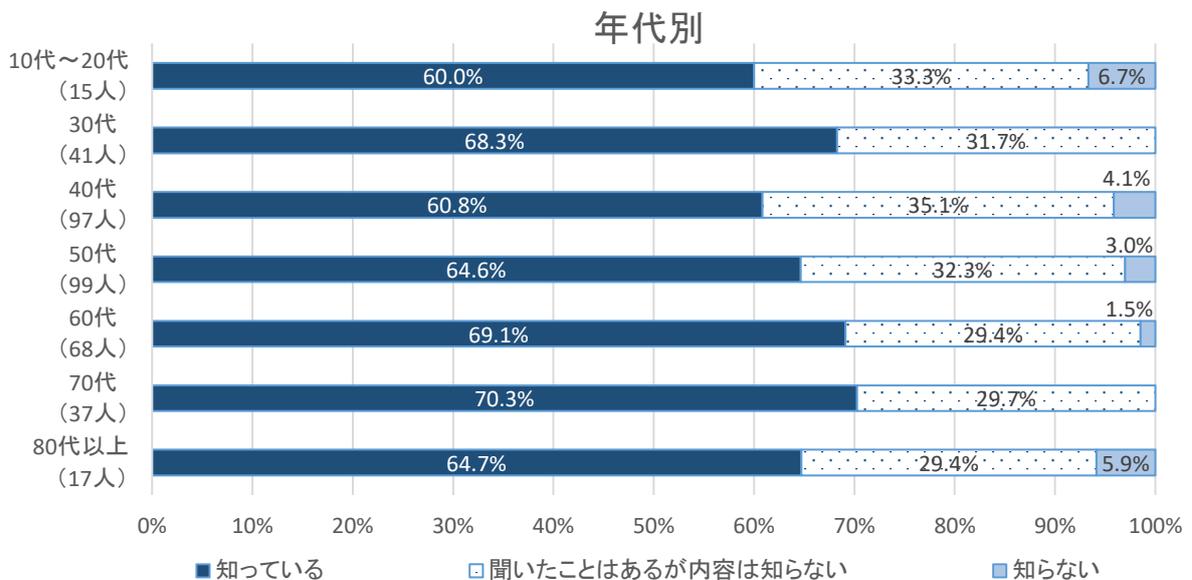
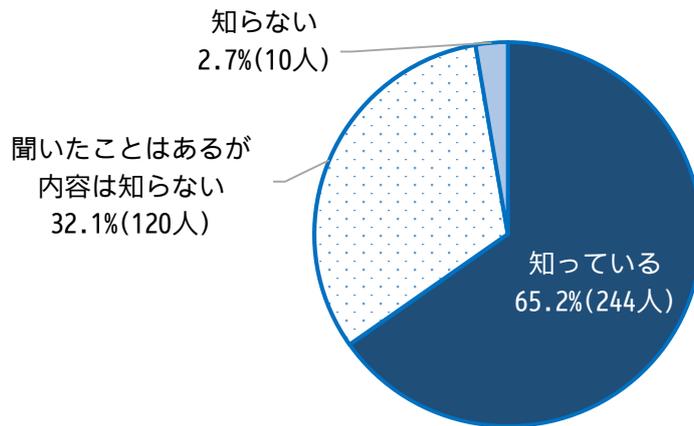


問14で「知っている」と回答した方の内、75.0%が「確認している」と回答している。70代を除いて、どの年代も7割以上であり、郡山市地理情報システムを用いてリスクの確認を行っている人の割合は全体的に高い。性別では、男性は87.3%、女性は61.5%であり、女性よりも男性の方が25.8ポイント高い。

第6章 避難等について

問16 警戒レベルについてご存知ですか？（1つ選択）

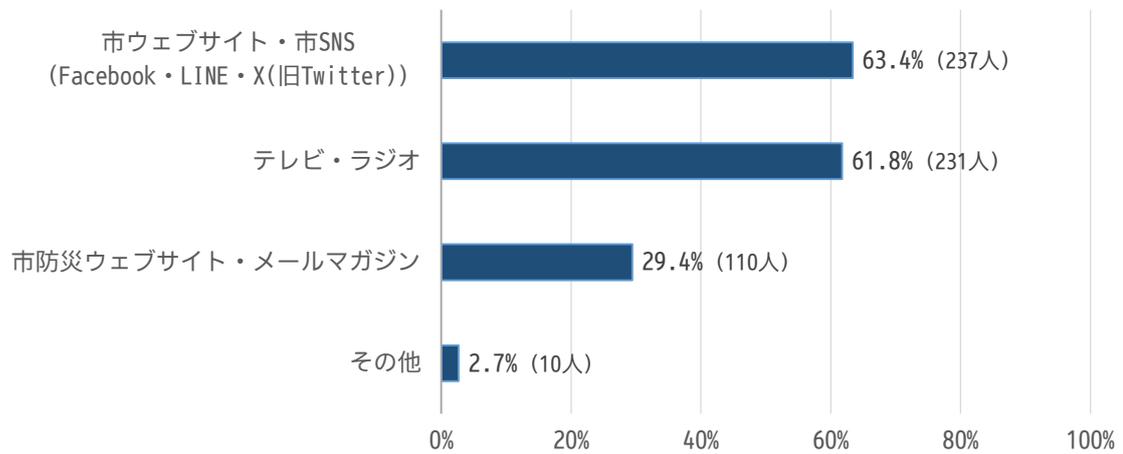
（回答者：374人）



全体の65.2%が「知っている」、32.1%が「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答し、合わせて97.3%が警戒レベルを聞いたことがある。性別では、男性は96.9%、女性は97.7%であり、ともに9割以上が「知っている」もしくは「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答している。

問17 本市では、災害情報や避難情報などを様々な手段で配信していますが、どのような手段で情報を取得していますか？（複数選択可）

(回答者：374人)



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

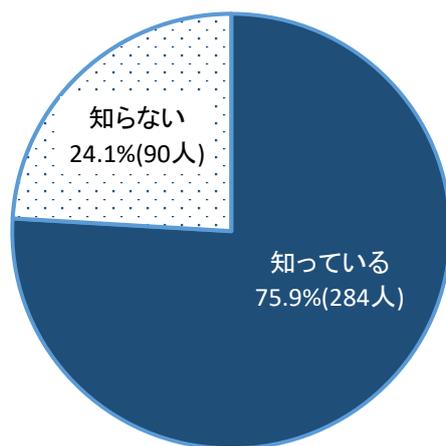
■「その他」を選択した方の主な意見

- ・スマホアプリの通知
- ・民間ウェブサイト

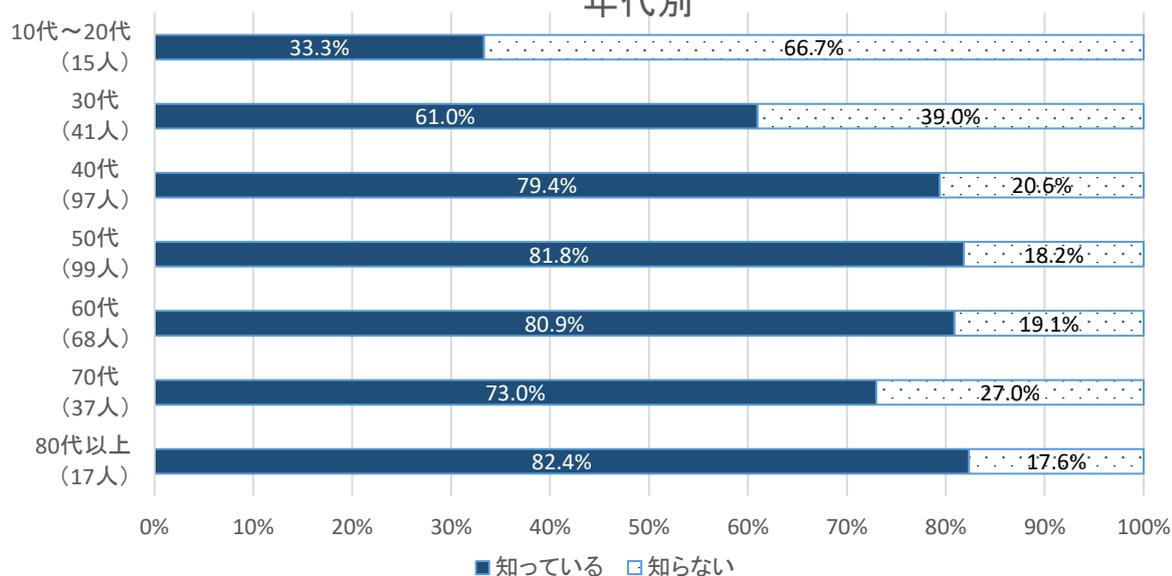
「市ウェブサイト・市SNS (Facebook・LINE・X(旧Twitter))」が63.4%で最も多く、「テレビ・ラジオ」が61.8%で次に多い結果となった。

問18 「わが家の防災ハンドブック」をご存知ですか？（1つ選択）

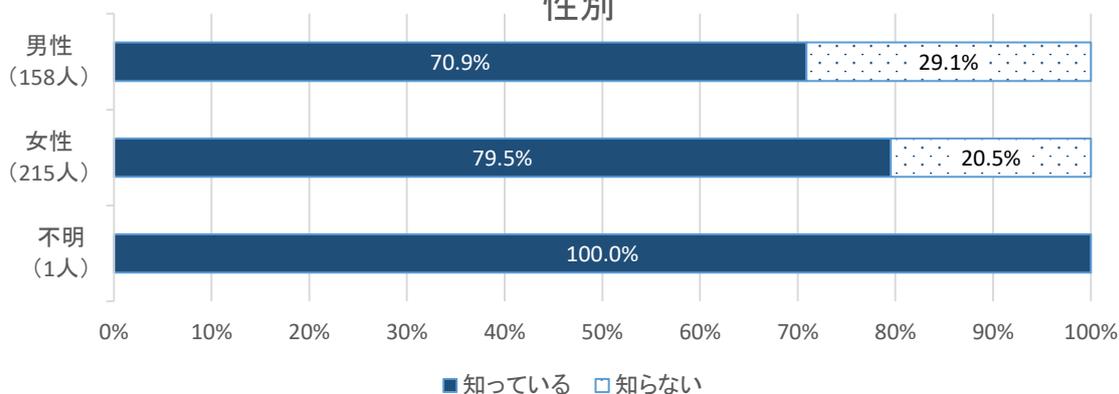
（回答者：374人）



年代別



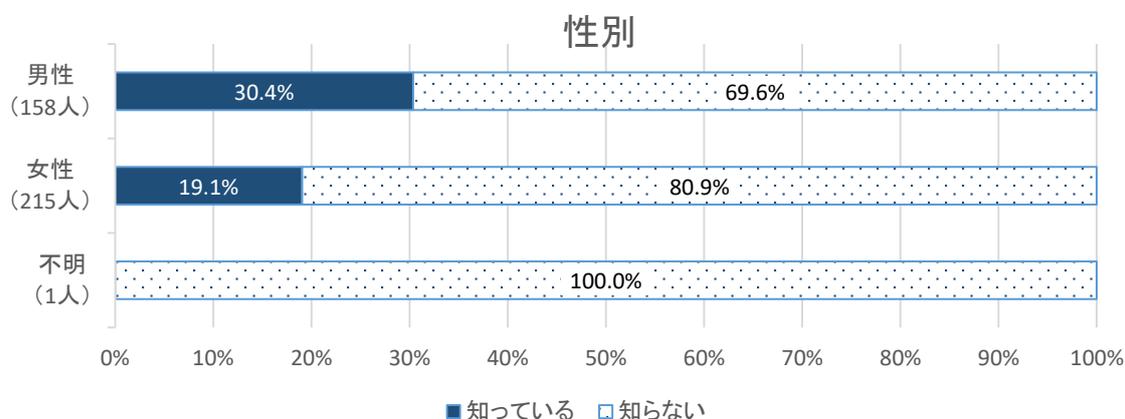
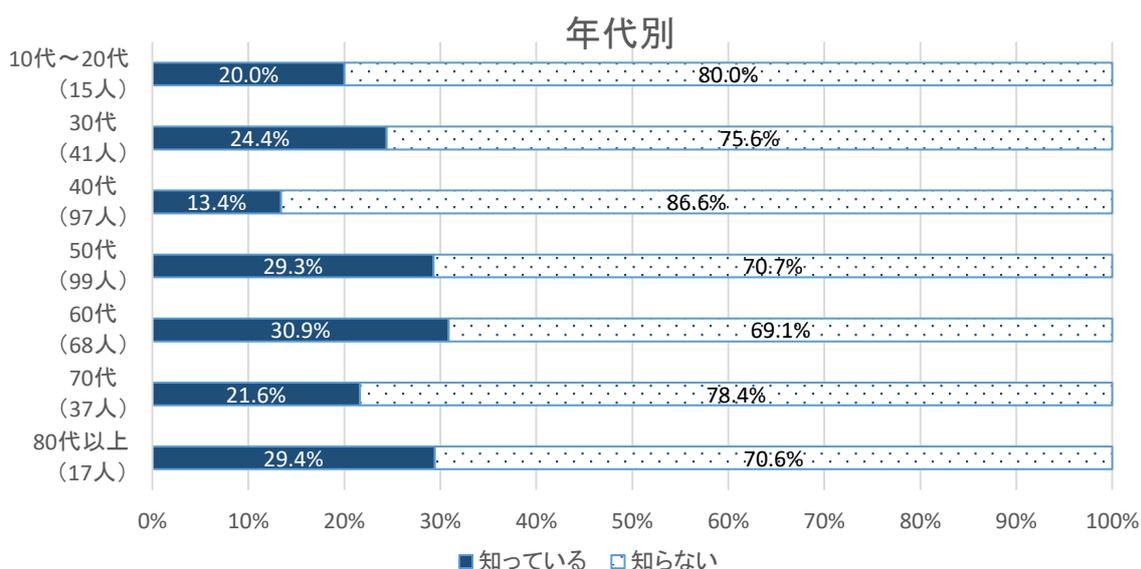
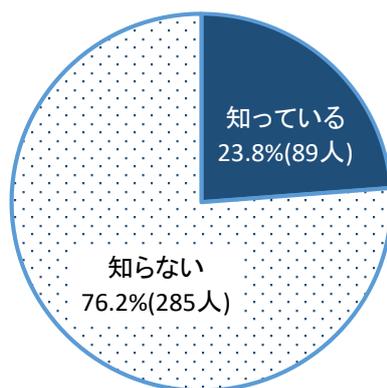
性別



全体の75.9%が「知っている」と回答している。年代別では、10代～20代を除く各世代において6割以上となっており、認知度は高い。性別では、男性は70.9%、女性は79.5%であり、ともに7割が「知っている」と回答している。

問19 洪水等に備え活用できる「マイ・タイムライン（※）」をご存知ですか？（1つ選択）
 （※）台風の接近によって大雨などにより河川の水位が上昇する時に、「いつ・どんなとき・何をするか」をあらかじめ整理した自分自身の防災行動計画

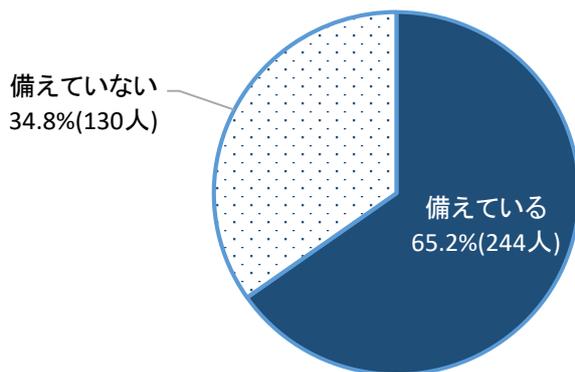
（回答者：374人）



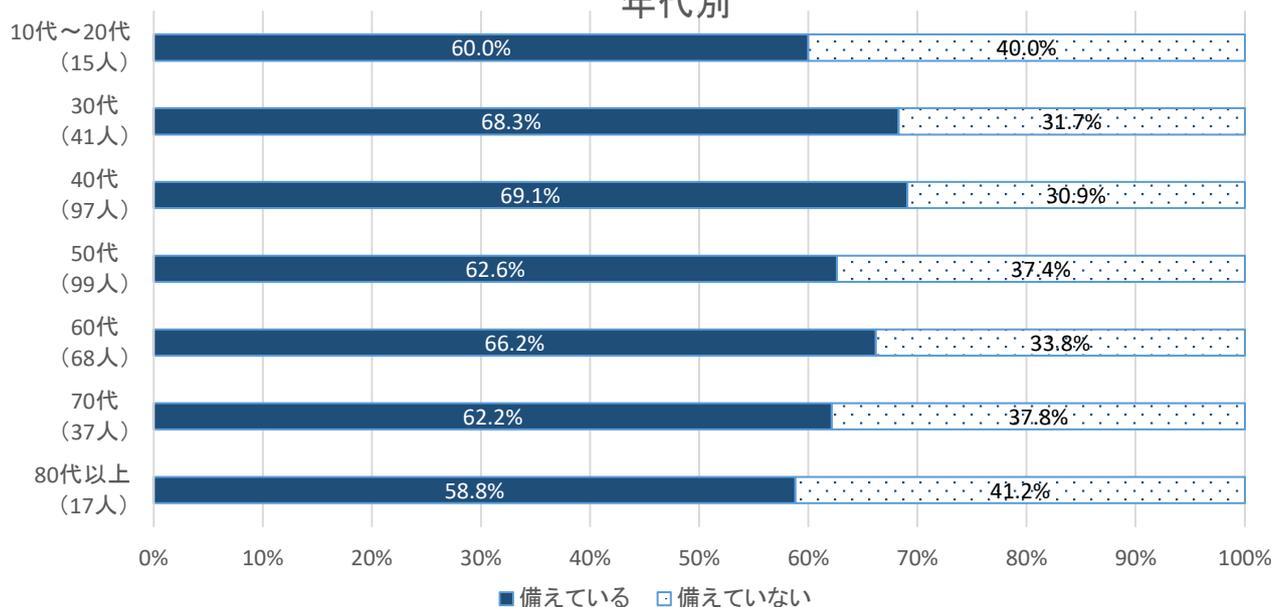
全体の76.2%が「知らない」と回答している。年代別では、どの年代においても4割以下となっており、認知度は低い。性別では、男性は30.4%、女性は19.1%が「知っている」と回答しており、ともに認知度が低い。

問20 家庭内に災害のための非常用備蓄品を備えていますか？（1つ選択）

（回答者：374人）



年代別



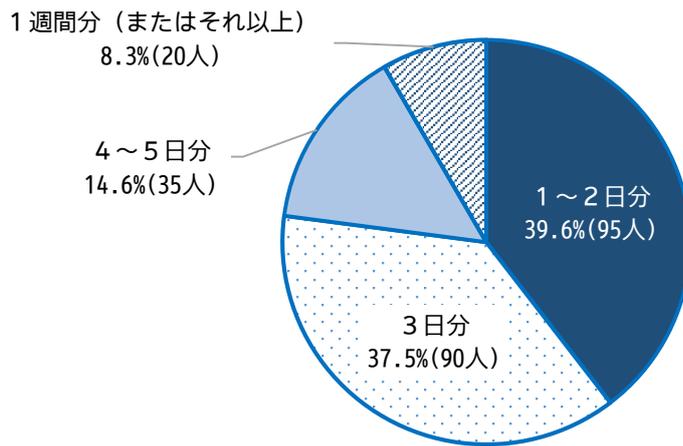
性別



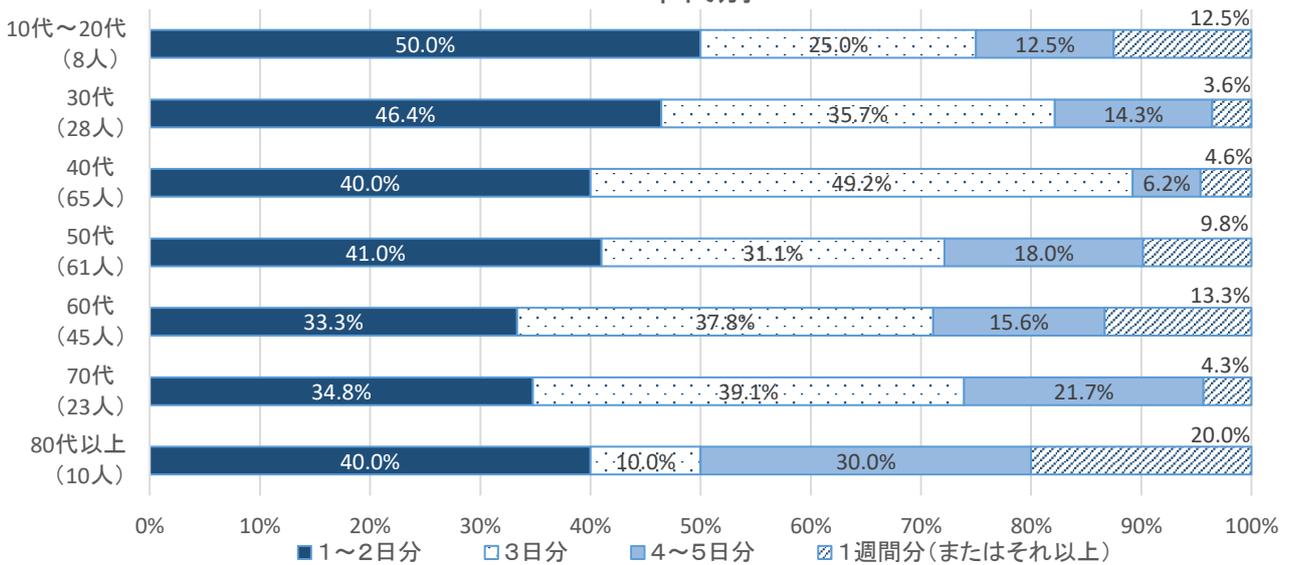
非常用備蓄品を65.2%が「備えている」と回答している。年代別では、各年代において半数以上が「備えている」と回答している。また、性別では、男性は62.7%、女性は67.0%であり、ともに6割が「備えている」と回答している。

問21 問20で「備えている」を選択した方に伺います。非常用備蓄品を何日分備蓄していますか？

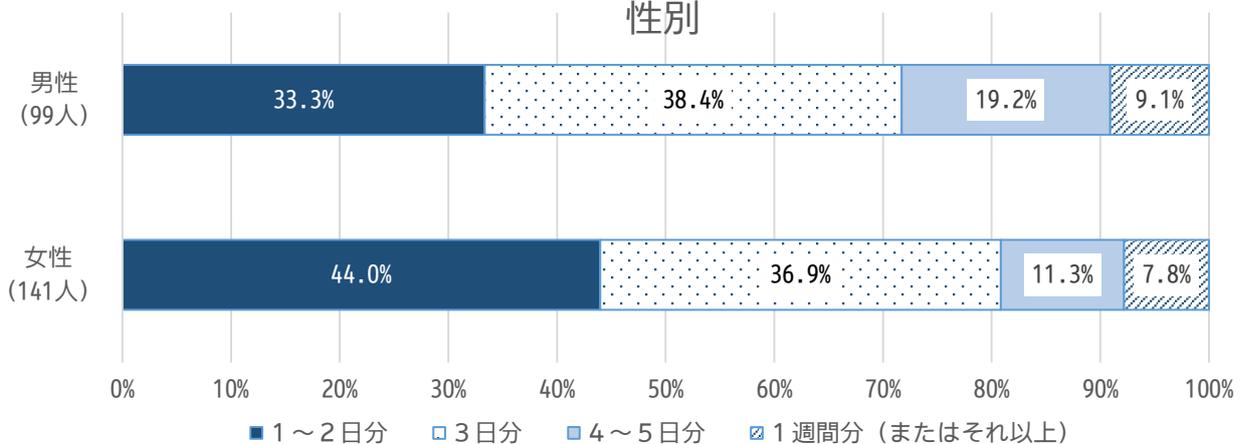
(回答者：240人)
(無回答：4人)



年代別



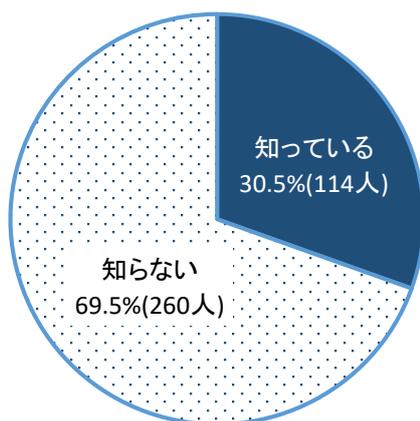
性別



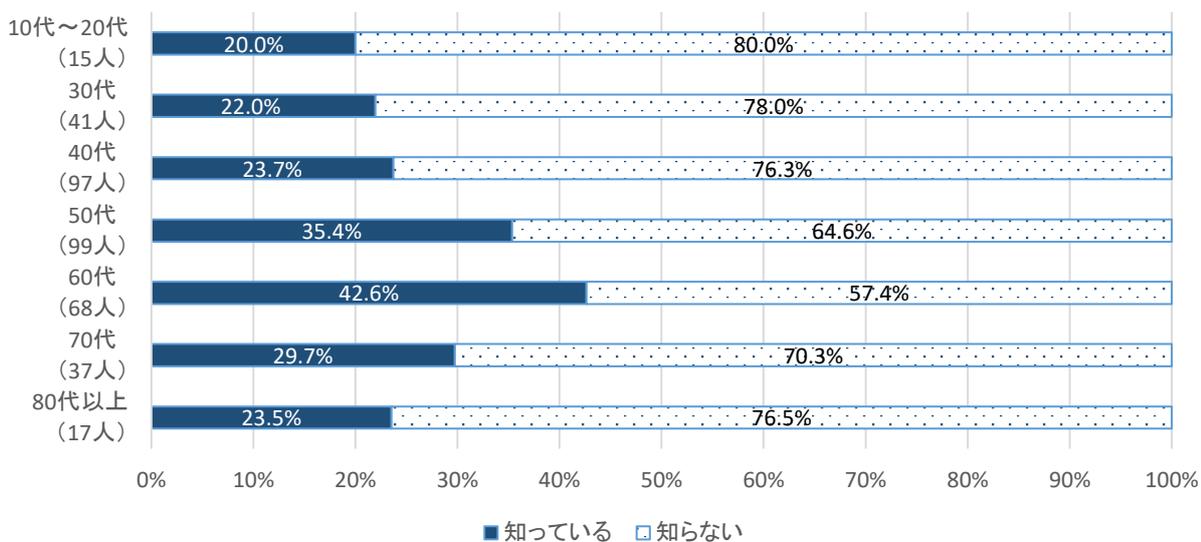
問20で「備えている」と回答した方の中、「1日～2日分」が39.6%と最も多く、「3日分」が37.5%であり、ともに4割近い結果となった。性別では、男性の38.4%が「3日分」と最も多く、女性の44.0%が「1日～2日分」と最も多い結果となった。

問22 高齢者や障がい者など、災害時に一人では避難することが困難な方（避難行動要支援者）を避難支援するために作成する「個別避難計画」をご存知ですか？（1つ選択）

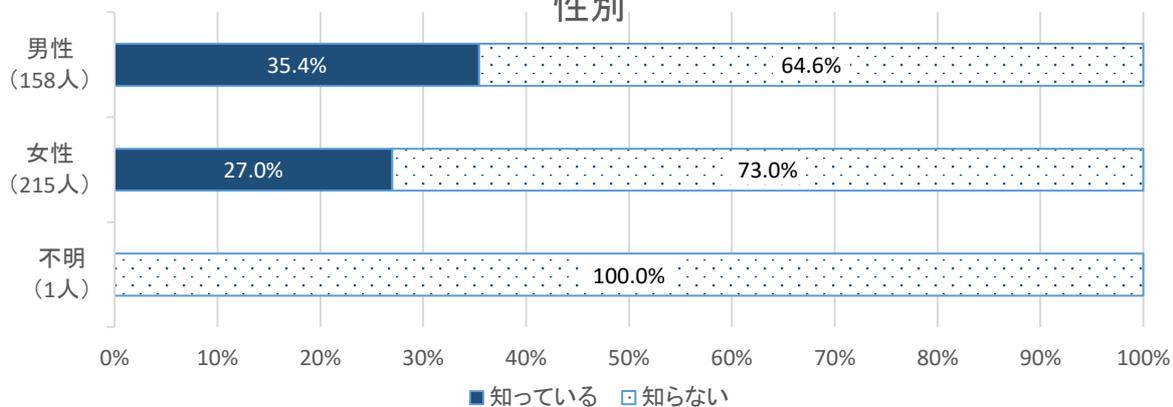
（回答者：374人）



年代別



性別

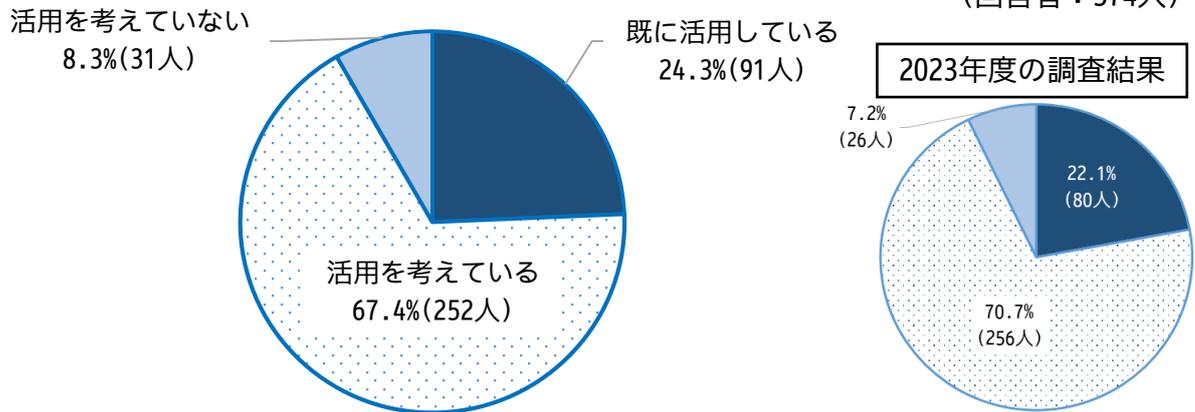


全体の69.5%が「知らない」と回答している。年代別では、どの年代においても「知っている」は半数以下となっており、性別では、男性は35.4%、女性は27.0%であり、認知度は低い。

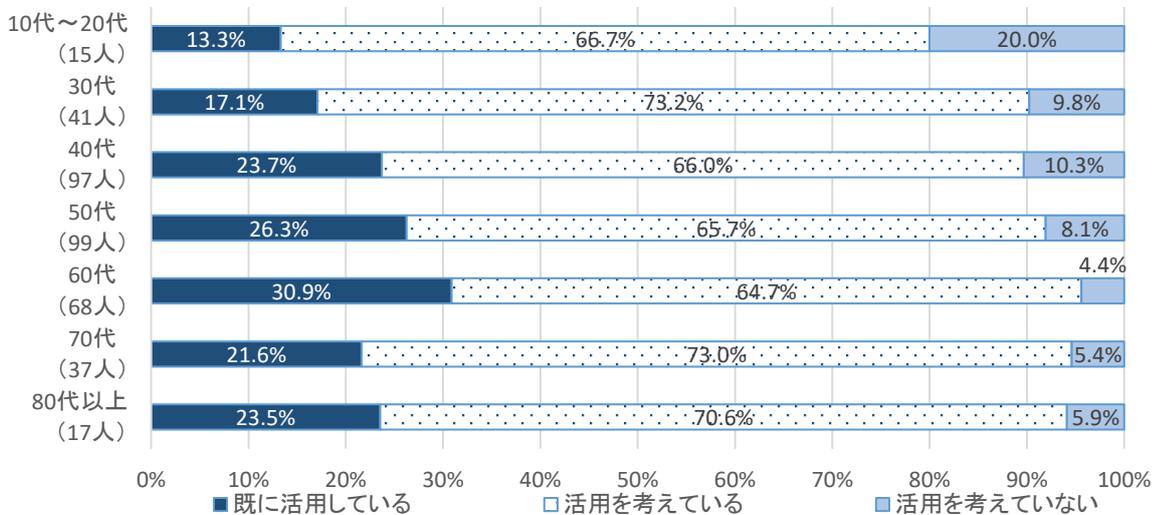
第7章 その他

問23 今回のアンケートを機に各種ハザードマップ（洪水、土砂災害、液状化）を活用しようと思いますか？（1つ選択）

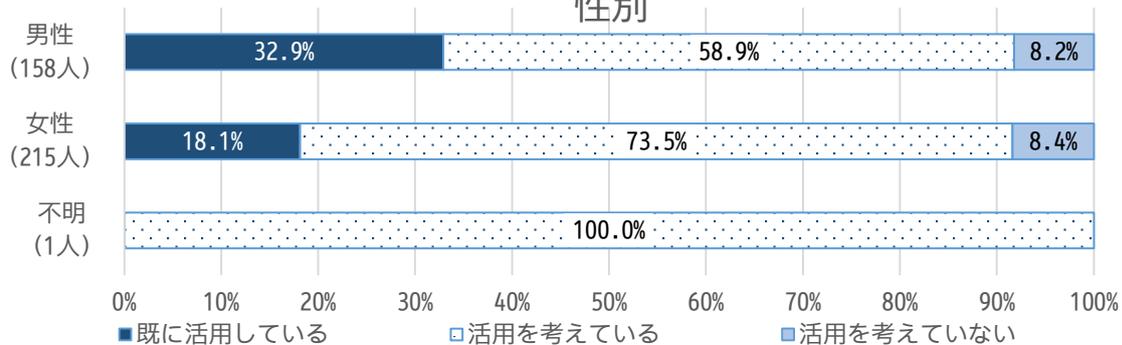
（回答者：374人）



年代別



性別

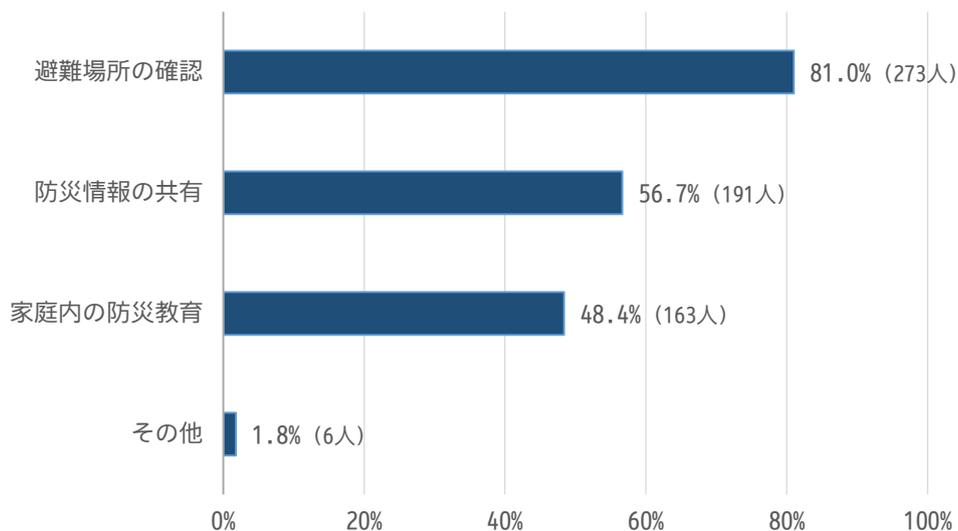


全体の24.3%が「既に活用している」、67.4%が「活用を考えている」と回答し、合わせて91.7%が各種ハザードマップの活用について考えている。性別では、男性は91.8%、女性は91.6%であり、ともに約9割が「既に活用している」もしくは「活用を考えている」と回答している。

問24 問23で「既に活用している」や「活用を考えている」を選択した方に伺います。どういった活用を実行していたり、考えていますか？（複数選択可）

(回答者：337人)

(無回答：6人)



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

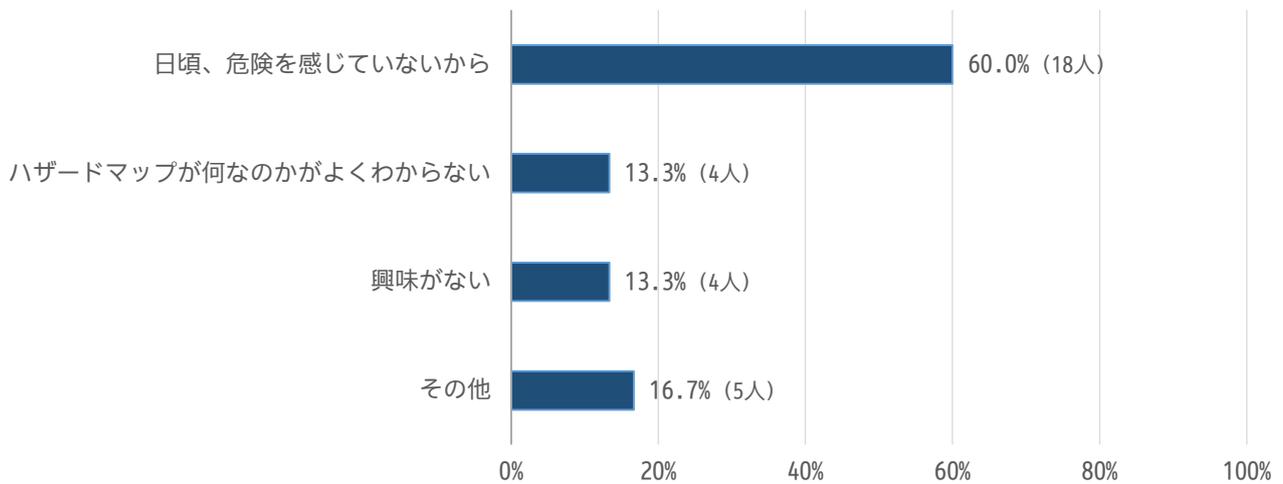
■「その他」を選択した方の主な意見

- ・避難場所までの避難ルート検討
- ・旅行先の危険度確認
- ・外国人住民への防災教室

「避難場所の確認」が81.0%で最も多く、「防災情報の共有」が56.7%で次に多い結果となった。

問25 問23で「活用を考えていない」を選択した方に伺います。それはなぜですか？
(複数選択可)

(回答者：30人)
(無回答：1人)



※割合は回答者数に対する選択者数の値です。

■「その他」を選択した方の主な意見

- ・自宅付近はハザードマップの対象地域ではないため

「日頃、危険を感じていないから」が60.0%で最も多く、次いで「ハザードマップが何なのかがよくわからない」および「興味がない」がともに13.3%であった。

問26 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

ハザードマップ等の活用について
台風の季節が近づいているので、避難所や避難ルートを再確認し、家族で情報共有したいと思いました。(40代・女性)
比較的高台に住んでいるので、水害や土砂崩れなどの自然災害について心配はしていませんが、外出先で災害にあった際にどう対応すべきか考えてみます。(70代・女性)
私自身が令和元年の東日本台風で被災しました。浸水箇所が地理的にどこか分からず、簡単な地図や知識を把握しておけばもっと早く避難できたのかなと思います。(40代・女性)
各種ハザードマップを日頃から活用しています。子どもにもわかりやすい子供用のハザードマップがあると子供は興味を持つと思います。(30代・女性)
自分自身が水害に遭ったので、洪水ハザードマップは知っていたが、土砂災害ハザードマップ等についてはあまり知らなかった。(60代・女性)
周知について
ハザードマップ等の印刷物では危ない箇所を知るきっかけとなり、緊急時はインターネットで情報を収集できるように市民に対しイメージをもたせることが必要。(50代・男性)
LINE等で日頃から防災関連の案内があり、危機意識に繋がって助かっています。(30代・女性)
災害の記憶は時間と共に薄れていきます。過去の災害、避難場所、ルート、防災グッズなど継続的に広報することが重要。(60代・男性)
ウェブサイトについて
今回のアンケートをきっかけに郡山市ホームページを確認してみます。(60代・女性)
地震や水害など命に係わる災害の場合は特に多言語化が必要だと思います。(60代・女性)
防災関係について
市内でも居住地域によって被害想定が大きく違う。阿武隈川周囲の被害が大きければ結果的に企業流出や人口流出となり、市の衰退に繋がると思います。防災意識を高めると共に河川等の防災対策をお願いしたいと思います。(50代・男性)
日頃からの防災に対しての心構え、大事であることを再認識致しました。(70代・女性)
避難所について
避難所がどこなのか明確に表示するために、避難所等の看板をもっと増やすべきだと思います。(50代・男性)
超高齢者があり、避難場所が学区外の馴染みのない学校等なので、いつもは旧市内の知人宅に寄せてもらっています。阿武隈川東岸に住んでいますが、できれば西岸の旧市内に避難所があると安心できる。(50代・女性)
その他
今回のアンケートをきっかけに防災意識を高めて家族で共通認識を深めたいと思いました。(40代・女性)
市提供の情報に頼るのも良いが、実際の避難の際には地域的判断が必要なのではないかと思う。(70代・女性)